

# 1 平成21年8月の消費者物価指数等

- 広島市総合指数（100.9）は前月比で2か月ぶりに上昇（0.2）。前年同月比は5か月連続で下落し、比較可能な昭和45年以降で最大となった前月と同じ下落幅（▲1.9）となった。
- 生鮮食品を除く総合指数（100.8）は前月比で2か月連続の下落（▲0.1）。前年同月比は5か月連続で下落し、下落幅（▲2.3）は比較可能な昭和45年以降で、3か月連続で最大となった。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（98.9）は前月と同水準。前年同月比は5か月連続で下落し、下落幅（▲1.0）は比較可能な平成17年以降で最大となった。

## 2 総合指数，生鮮食品を除く総合指数，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	100.9	0.2	▲1.9
生鮮食品を除く総合指数	100.8	▲0.1	▲2.3
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	98.9	0.0	▲1.0

## 3 前月からの動き

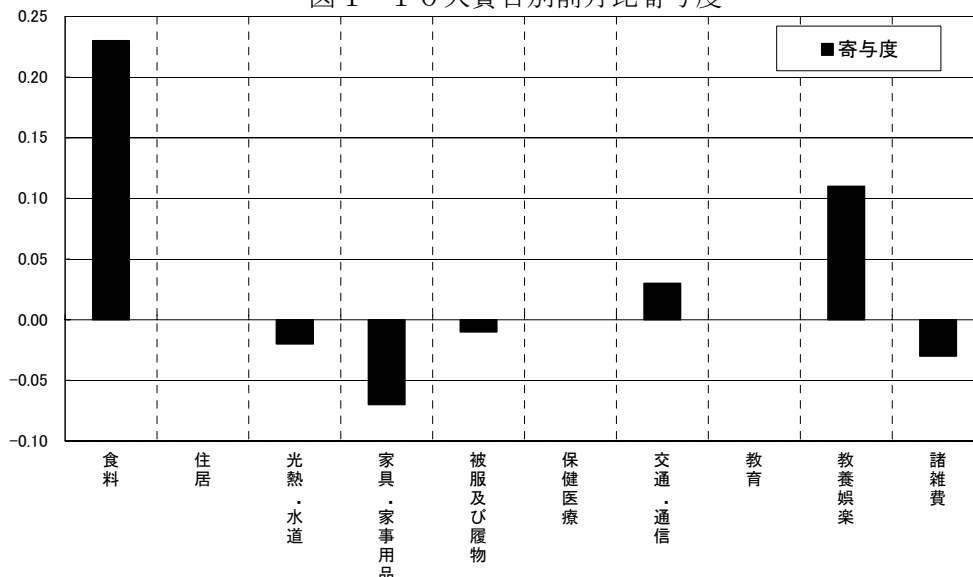
～主に食料，教養娯楽が上昇。家具・家事用品，諸雑費，光熱・水道は下落。～

### (1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	100.9	105.1	100.3	104.2	86.2	101.9	97.9	98.6	106.0	96.2	101.3
前月比 (%)	0.2	0.9	0.0	▲ 0.3	▲ 2.3	▲ 0.2	0.1	0.2	0.0	1.1	▲ 0.5
寄与度	0.24	0.23	0.00	▲ 0.02	▲ 0.07	▲ 0.01	0.00	0.03	0.00	0.11	▲ 0.03

(参考) 主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目  
 食 料 : 野菜・海藻（前月比 9.1%，寄与度 0.22）等  
 教養・娯楽 : 教養娯楽サービス（前月比 2.1%，寄与度 0.12）等

図1 10大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度: 物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したものの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
項 目（主な品目名）	前月比	項 目（主な品目名）	前月比
野菜・海藻（レタス 等）	9.1%	家庭用耐久財（ルームエアコン 等）	▲6.7%
教養娯楽サービス（宿泊料 等）	2.1%	魚介類（いか 等）	▲1.7%
果物（なし 等）	11.4%	通信（移動電話通信料 等）	▲0.9%
交通（航空運賃 等）	1.3%	室内装備品（カーテン 等）	▲6.1%
自動車等関係費（自転車 等）	0.2%	理美容用品（ヘアカラー 等）	▲1.8%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：宿泊料，外国パック旅行 等

下落：ルームエアコン，移動電話通信料 等

4 前年同月からの動き

～交通・通信，光熱・水道が主な下落要因で，5か月連続の下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	▲1.9	0.9	▲0.2	▲7.7	▲6.5	1.0	▲1.0	▲7.2	0.9	▲2.5	▲1.6
寄与度	▲1.93	0.23	▲0.03	▲0.55	▲0.21	0.05	▲0.04	▲1.06	0.04	▲0.26	▲0.10

(参考) 主な要因となっている10大費目について，寄与の大きかった中分類項目

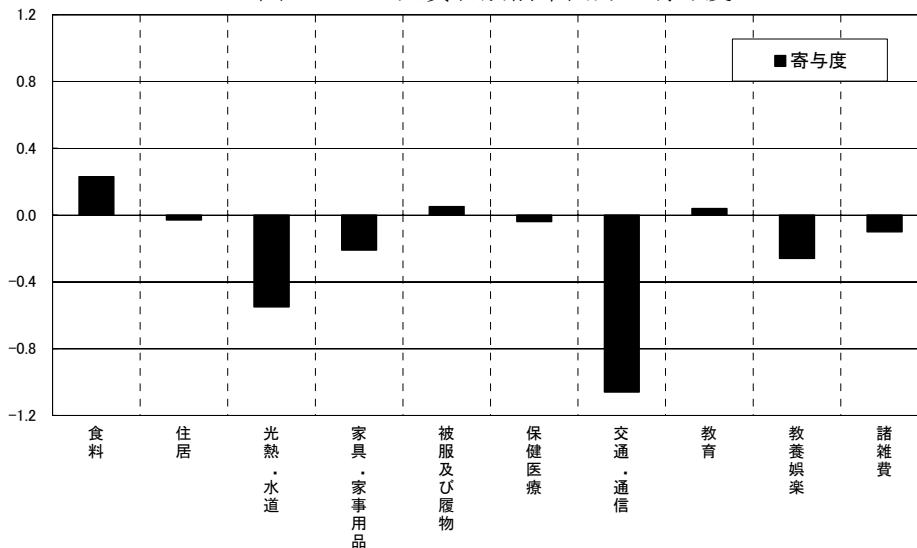
交通・通信：自動車等関係費（前年同月比▲11.7%，寄与度▲0.95）等

光熱水道：他の光熱（前年同月比▲44.3%，寄与度▲0.23）

ガス代（前年同月比▲10.3%，寄与度▲0.23）等

教養娯楽：教養娯楽サービス（前年同月比▲2.1%，寄与度▲0.13）等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
費 目（主な品目名）	前年同月比	費 目（主な品目名）	前年同月比
野菜・海藻（トマト 等）	10.0%	自動車等関係費（ガソリン 等）	▲11.7%
洋服（女兒スカート [夏物] 等）	4.2%	他の光熱（灯油）	▲44.3%
調理食品（ぎょうざ 等）	2.3%	ガス代（都市ガス代 等）	▲10.3%
菓子類（キャンデー 等）	2.4%	教養娯楽サービス（外国パック旅行 等）	▲2.1%
外食（カレーライス 等）	0.7%	教養娯楽用耐久財（パソコン [ノート型] 等）	▲24.3%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：トレーニングパンツ，トマト 等

下落：ガソリン，灯油 等

品目によって特徴のある動き

消費者物価指数は需要と供給のバランスや、原材料価格の変動等によって変動し、重要な経済指標として利用されています。

しかし、消費者物価指数の中には、1年間のうちに、ある程度規則的に変動するものもあります。今月は、そういった特徴のある指数について紹介します。

物価指数の季節性とは

消費者物価指数を構成する品目の中には、出回り時期によって価格の変動する物、例えば「いちご、みかん等」があり、これらは出回り開始時期には高く、出回り終了時期には安くなる傾向があります。また、決算セールやバーゲン・ボーナス時期などにも、価格が安くなる傾向があるため、品目によってはある程度、周期的な価格動向となります。

なお、総務省公表の全国平均値では、この季節性を除外した「季節調整済指数」も掲載されています。

図1 バーゲン時期などの影響を比較的大きく受ける、被服及び履物についてみると、どの年次にも1月に大きく下落（グラフ○囲み部分）する傾向があり、また7月ごろにも同様の傾向がみられます。

図2 パソコンや外国パック旅行等の品目がある教養娯楽についてみると、指数としては下落基調で推移しているものの、毎年8月ごろ上昇（グラフ○囲み部分）する傾向があります。

※ なお、通常は前年同月比での比較を行いますが、周期的な変動をみるため、ここでは前月比を掲載しました。

図1 「被服及び履物指数」及び前月比の推移（広島市）

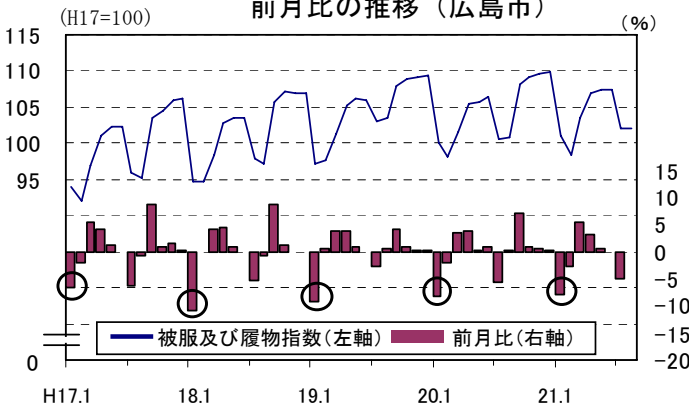
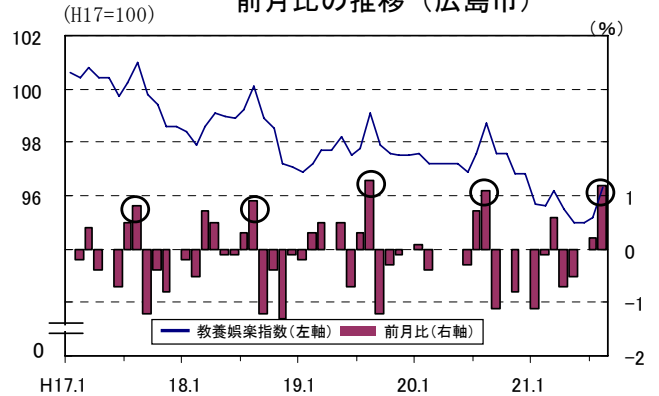


図2 「教養娯楽指数」及び前月比の推移（広島市）



洋服などを含む、被服及び履物指数については、やはりバーゲンやボーナス時期のセール等の影響を受けて、周期的に変動するものと思われれます。

教養娯楽指数については、お盆や夏休みの時期に、旅行代金等が高くなるといった影響を受けていると考えられますが、教養娯楽指数には、品質が向上した分、価格が下落したように品質調整される品目（テレビ、パソコン等）も含まれることから、昨今の品質向上の影響を受けて、指数としては下落基調で推移しています。

このように、消費者物価指数を構成する各指数には、それぞれ特徴があり、そういったもの全てを含めて物価指数が形成されています。

最後にもう一つ、図3として生鮮食品指数についてみると、指数や前月比に季節的な規則性はみられず、比較的大きな振れ幅で、天候等により不規則に変動しています。

消費者物価指数で物価水準の変動をみるときに、「生鮮食品を除く総合指数」が用いられることが多いのは、こういった不規則な変動を除いた水準で物価動向をみるためなのです。

図3 「生鮮食品指数」及び前月比の推移（広島市）

